藍染めプロジェクト～自然の色で染めよう～

ちえのわ　藍染めプロジェクト

■第１回－藍でしぼり染め

日時：2006 年８月９日（土）　9:30～15:30
場所：東京学芸大学　環境教育実践施設　多目的室
対象：小１～中３　参加者数：９名
講師：羽生洋子氏（ＮＰＯ法人　自然文化誌研究会）

《活動内容》

１．藍染めってなんだろう。

まずは、藍染めって何だろうという話から。藍色は知っている。でも時代劇で着ている青い着物の色とは知らなかった。どうやって色をつけているのだろう。青い色の正体がただの葉っぱと聞いて、なんだか納得いかない様子。葉っぱを乾燥させて、それを発酵させる（すくも）。実物の葉っぱやすくもを見た後、実際に畑に生えているアイの葉っぱを採りに行くことになりました。

２．アイをとりにいこう！

降っていた雨も小雨になり、どうやら外に出られそうです。さっそく靴を履きかえ、畑に行きました。

「どれがアイなのかわかるかな。」ときくと、２年目の参加者が即座に指差す先にたくさんのアイが生えています。剪定ばさみの使い方を教えてもらい、アイを根元から 20cm くらいのところを残して刈っていきます。１５分くらいかけて、１畝分のアイを収穫しました。

収穫したアイの葉っぱだけを使うので、今度は茎を除いて葉っぱだけにします。たくさん収穫した分、時間がかかるところですが、みんなで協力したらすぐにできました。水をはったたらいいっぱいに集まったアイの葉、どうやって使うんだろう。子どもたちはそんなふうに思っていたのではないでしょうか。

とれたてで新鮮なアイの葉なので、まずは定番の生葉染めをしました。染め方は、青菜の塩もみと同じ。ボウルに盛ったアイの葉に塩をふります。「漬物みたい。」と素直な感想。さらに水を少し入れて、もんだり、ひねってちぎったり、おしつぶしたりしていると、水の色がどんどん緑色になっていきます。これが、アイの生葉の染め液です。３分くらいよくもみ、汁を搾る。これを３回繰り返してアイのジュースを集めます。それを使って、さっそく布を染めてみました。

生葉では、絹がよく染まるので、絹のハンカチを染めました。染め液に浸して少し待ち、引き上げて空気にさらす。空気にさらすことによって、アイの色が定着するのです。これを何回か繰り返すと、徐々に色が濃くなって、見事なエメラルドグリーンになりました。「もう１回。」と、さらに濃く染めたいと子どもたち。毛糸を染めようと持ってくる子も。みんなすっかり生葉染めに夢中でした。

３．すくもを使って染めよう！

そして、いよいよ本日のメインの、すくもを使った建て染めです。すくもとは、アイの葉を乾燥、発酵させたもので、独特のにおいがあります。「くさーい」「畑のにおいがする」など子どもたちの好みも分かれました。そのすくもをボウルに入れ、お湯を注いてよくこねます。そうすると、すくもの中に眠る菌が働くようになるのです。こねたすくもをポリバケツにいれ、お湯で満たし、そこに「秘密の粉」を入れます。これはハイドロサルファイトという還元剤で、本当は使いたくないものなのです。秘密の粉を入れて混ぜると、紺色の泡が出てきます。これで染める準備は完了です。

染め液の準備ができたら、今度は染めるＴシャツにデザインをします。デザインは、しぼりと呼ばれる模様づくりの手法で行います。ビー玉、輪ゴム、割りばし、角材、フィルムケース、洗濯ばさみ、ビニール袋･･･いろいろな道具を自由に使って、しぼりの模様をつけていきます。参加者はなかなかデザインが決まらなかったり、うまくしぼれなかったりと苦戦していましたが、それでも一生懸命いろんな模様を作っていました。

お昼の休憩をはさんで、午後はＴシャツを染める工程に入ります。デザインに凝っている子達もいるので、出来上がった順に染めました。すくも液は pH が高くて危険なので、ゴム手袋をして作業します。３分ほど浸したら、布を引き上げて５分ほど空気にさらして色素を定着させます。これを繰り返すことによって、色が濃くなっていきます。染め液の元気がよすぎたのか、２～３回染めただけでかなり濃い藍色になりました。最後に水洗いして定着していない色素と汚れを落とします。汚れが落ちて鮮やかな青になると、子どもたちからは「すごい」「きれい」と、驚きと感動の声が聞こえました。さらに、洗いながらしぼりをはずしていくと、そこにはくっきりと模様が出てきます。ビー玉を入れて輪ゴムでしばっていた子は、輪ゴムをはずしてきれいな円形の白い線が出てきたのを見て、思わず笑みがこぼれていました。

４．どんなもようができたかな

みんな、思い思いのしぼりでもようを作っていました。思い通りのもようができた子、予想外の素敵なもようができた子、Ｔシャツが破れてやり直した子、９人の参加者はそれぞれの作品を作っていました。

■第２回－草木染めでフェルトづくり

日時：2006 年 11 月 18 日（土）　9:30～13:30
場所：東京学芸大学　造形実習室
対象：小１～小６　参加者数：16 名
共催：たけとんぼ（東京学芸大学サークル）

↑羊毛を染めてフェルトを作ります。

《準備・勉強会》

造形サークル「たけとんぼ」さんからお話をいただき、造形＋染めのワークショップを開催しました。共催企画は初めての試みです。当日まで打ち合わせ・勉強会などを数回行い、当日に備えました。

《活動内容》

１．材料集め

朝のあいさつと自己紹介が終わったら、いよいよ活動開始です。今日は何をやるの？羊毛を見せると、みんな興味津々です。こんな長い羊毛なんて、初めて見ます。「これに、農園にある植物で色をつけるんだよ。」と、農園を散策して草木染につかう材料をグループに分かれて取りに行きました。

長い羊毛は腸みたいだ。

これは何色になるかなぁ？

２．材料の煮出し・フェルト作り

材料が集まったら、実習室に集まって煮出します。その間に、用意しておいた羊毛で下地作りです。

◇フェルトのつくり方

１.好きな色の羊毛を重ねる　2.石鹸水をかけて、上からこする（＝フェルト化）

色が着いている羊毛を使って下地を作ります。色がたくさんあるとうれしくなるし、完成のイメージが膨らみます。子どもたちは、学生たちも思いつかないくらい素敵な模様・色合いを作りだしていました。

３．羊毛を染めるぞ

フェルト作りをしているうちに、なんだかいいにおいや、変なにおいがしてきました。みんなが集めた素材から、何色が生まれたか、わくわくしながら見ていきます。みかんの皮や松ぼっくりは、元と同じような色だけど、あれ、びわの葉っぱはきれいな赤い色に。みんなが好きなものを拾って入れたごった煮鍋は、黒っぽい色になってしまいました。思ってもいなかった色が現れるたびに、歓声が上がったり、どよめきが起こったりしました。

４．完成はもうすぐ

お昼のあとは、下地に染めた羊毛で模様をつけて、最後のフェルト化作業で完成です。自分たちで作った色の羊毛は、上から重ねてくっつけます。

５．フェルト完成･･･！

実は、みんなのこだわりがすばらしくて、時間内に終わらず、フェルト完成まで行かなかった子が何人かいまいました。そこで、みんなにフェルトのつくり方とお手入れ方法、さらには活用法（フェルトでできる小物など）を書いたプリントを配布しました。手作りフェルトを使ってくれていることを願います。

《まとめ》

今回は、現代 GP からサポートしていただいたことで、ワークショップに十分な材料を確保することができ、子どもたちと思う存分、染物体験や造形活動を行うことができました。

染物を通して、自然に触れる機会を作ることにもなったのではないかと思います。また、この活動を通して、子どもたちが学校以外の人間関係に触れる機会にもなったと思います。

子どもたちが活動に夢中になり、個性豊かな作品を作り上げていく様子に触れ、子どもたちが学ぶ様子を実際に感じることができた活動になりました。